Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Characteristics of IgA nephropathy in advanced-age patients

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大島, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032088

主論文の要約

Characteristics of IgA nephropathy in advanced-age patients
（高齢者における IgA 腎症の特徴）

東京女子医科大学　内科学(第四)教室
（指導：新田孝作教授）
大島 康子

International Urology and Nephrology, 47(1):137-45 2015 に掲載

【背景および目的】

IgA 腎症の好発年齢は 15 から 30 歳と若年で、その約半数の患者が 30 年以内に末期腎不全に進展することがわかっている。一方、60 歳以上の高齢者においても新規に診断される例が散見されるが、その臨床的特徴はいまだ不明な点が多い。本研究の目的は、高齢者における IgA 腎症の特徴を臨床・病理学的に検討することである。

【対象および方法】

対象は 1992 年から 2011 年の間に当科で診断された IgA 腎症患者 600 症例である。対象を高齢者群 （60 歳以上、n = 31)、中間年齢者群（40-59 歳、n = 162）および若年者群（20-39 歳、n = 407）の 3 群に分け、臨床検査・病理所見と腎機能予後因子について後方視的に検討した。

【結果】

臨床的特徴として、若年者群に比し、高齢者群では平均血圧は高く、高血圧症を有する患者数が多かった。また、若年者群および中間年齢者群と比較して、高齢者群では血清アルブミン値と推算糸球体濾過量（eGFR）は有意に低値で、血清尿素窒素、尿蛋白および尿中 N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）は有意に高値であった。病理学的検討では、若年者群に比し、動脈硬化の程度および

Oxford 分類による間質性線維化と尿細管萎縮の程度が高齢者群で強かった。カプランマイヤー法を用いた腎予後の解析によると、若年者群および中間年齢群と比較して高齢者群で腎予後は不良であった（高齢者群 22.9%/19 年 vs. 中間年齢群/若年者群 69.2/84.9%/20 年、$p < 0.0001$）。さらに、高齢者群のうち、末期腎不全への進展を認めた患者は、認めなかった患者と比較して、平均血圧は高く、より高度な蛋白尿を認めた。

【考察】本邦では高齢化に伴い、新規に IgA 腎症と診断される高齢者は増加傾向にある。本研究は、高齢者における IgA 腎症の臨床・病理学的特徴、腎予後および末期腎不全の危険因子を示した最初の報告である。本研究の結果から、高齢者における IgA 腎症は、腎機能障害、高度蛋白尿と慢性的な病理学的腎障害所見で特徴づけられることが示され、その腎予後は若年者群と比較して不良であることがわかった。高齢者群の IgA 腎症における末期腎不全へと進行する危険因子として高血圧と高蛋白尿があげられた。末期腎不全への進行を防ぐためには、原疾患に対する治療のみならず、併存疾患である高血圧症、脂質異常症および高尿酸血症の管理が重要であることが示唆された。

【結論】

高齢者における IgA 腎症患者の特徴は、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症などの併存疾患に起因する低腎機能、高度な蛋白尿、重度な間質性変化および動脈硬化であった。腎機能の予後は不良で、20 年以内に 70%以上が末期腎不全へと進行した。

（1168/1200 文字）